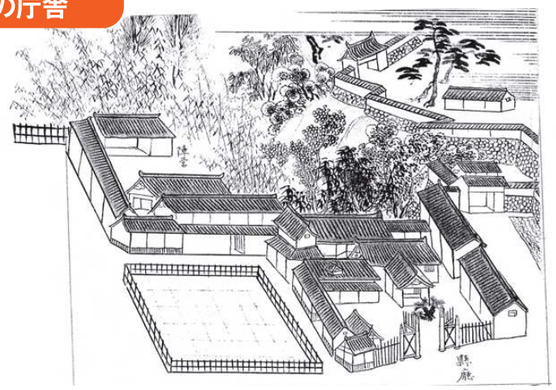
愛媛県庁舎の歴史　其之一

初代の庁舎



江戸時代の「伊予国」は、8つの藩と幕府直轄の天領に分かれていましたが、廃藩置県を経て石鐵・神山の2県となり、さらに明治6年（1873）年2月20日、両県が合併して「愛媛県」が誕生しました。

この時に使用された庁舎は、松山城三の丸の松山藩旧陣屋跡（現在の二の丸庭園から西側を見下ろした辺り）の竹矢来で囲まれた粗末な平屋建ての建物でした。

司馬遼太郎の小説「坂の上の雲」の主人公、秋山好古・真之兄弟の父、平五郎久敬は県庁学務課に勤務しており、NHKドラマで信三郎（好古）が父の勤務先に赴き師範学校への入学方法を尋ねる場面は、この初代庁舎が舞台でしょう。

2代目の庁舎

明治10（1877）年2月「西南の役」が勃発すると、反乱軍鎮圧のための官兵養成が急務となり、松山城三の丸は錬兵場として使用されることになりました。

このため、初代庁舎は立ち退きを余儀なくされ、同年6月、新庁舎の敷地として、現在地（松山市一番町4丁目4-2）にあった松山藩家老奥平家の屋敷跡を買収し、翌11（1878）年11月25日、木造平屋建ての2代目庁舎が新築落成しました。

当時、秋山淳五郎（真之）は正岡 升（子規）とともに、現在のNTT愛媛ビルの場所にあった勝山小学校に通っており、新築されたばかりの庁舎を見ながら毎日勉学に励んでいたのでしょう。

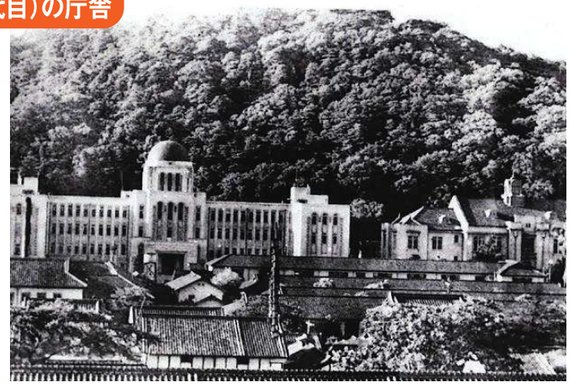
愛媛県庁舎の歴史　其之二

3代目の庁舎

秋山兄弟が活躍した日露戦争終結から3年後、明治41（1908）年に、建設後約30年を経た2代目庁舎は、「事務量増大により狭あいになった」という理由で建て替えられることになりました。

翌明治42（1909）年6月26日に竣工した3代目庁舎は、木造2階建ての洋風の建物で、その後、20年間に渡って、大正から昭和初期の激動の時代を見続けることになりますが、この間の大正7（1918）年、秋山兄弟の弟の真之は享年51歳で亡くなります。一方、兄好古は、昭和5（1930）年まで存命し、4代目（現在）の庁舎の完成も見ることになります。

現在（4代目）の庁舎



大正末期になると3代目庁舎の老朽化が著しくなり、約1年3ヶ月の工期をかけて、昭和4（1929）年2月9日、現在の庁舎が竣工しました。建築費は102万円（現在に換算すると100～120億円）で、当時の県予算が650万円程度の中で県にとっては大きな負担であり、財源確保のため県有地の売却なども行われたようです。

設計者の木子七郎は、好古と親交のあった本県出身の実業家新田長次郎の娘婿で、旧松山藩主久松定謨伯爵の別邸「萬翠荘」も手がけています。

また、好古は、同伯爵がフランス陸軍士官学校に留学した際、お世話役としてフランスに渡っています。

おまけのQ&A

Q1 なぜ、ドームを配した左右対称の建物なのか？

A1 国会議事堂をはじめ当時多くの官庁建築に見られる様式で、権威を象徴したものと言われています。

Q2 ドームの構造は？

A2 ドームは銅板でできているため、銅が錆びて青くなっています。中は、骨組みの鉄骨などがあるだけです。

Q3 本館の外壁は、何でできているのか？

A3 2階まではすべて花崗岩貼り瘤（こぶ）出し仕上げを用い、上部は人造擬石塗り洗出し仕上げ。また、車寄せから玄関にかけてはすべて花崗岩仕上げで、柱型や軒蛇腹部は花崗岩の彫刻仕上げとなっています。

えまひめ

愛媛県庁本館ご案内

みきゃん　ダークみきゃん　こみきゃん

MEMO・スタンプ

【設計者】木子　七郎（きご　しちろう）［1884（明治17年）－1955（昭和30年）］
東京帝国大学建築学科を卒業後、大林組を経て設計事務所を開き、大正末期から昭和初期にかけて、大阪を拠点に、多くの公共建築などを手がけた建築家。仏のレジオン・ドヌール勲章受賞。

【代表作】（現存するもの）
- 萬翠荘［旧久松定謨（旧松山藩主久松家第15代当主）別邸］（1922 松山市）
- 石崎汽船本社（1925 松山市）
- 旧新田邸（1929 現松山大学温山記念館 兵庫県西宮市）
- 関西日仏学館（1936 京都市左京区 原設計レイモン・メストラレ 設計監督木子七郎）

これが愛媛県庁本館!!

祝 国登録有形文化財

（令和3年2月26日）

知事が執務する庁舎としては、全国で3番目に古い。
国会議事堂（昭和11年竣工）より古い!!

【プロフィール】

- 昭和4年2月9日竣工（完成）＊工期：昭和2.11.11～昭和4.2.9
- 明治6年に愛媛県誕生後、4代目庁舎
- 鉄筋コンクリート造　4階建て
  - ・建築面積：2,030㎡
  - ・延べ面積：8,414㎡
  - ・高　　さ：32.6m
  - ・　幅　　：東西=約80m、南北=約43m
  - ・建 設 費：102万円

（今のお金に換算すると100～120億円。但し、現代、実際に建設すると120億円かけても建設できないのでは…。）

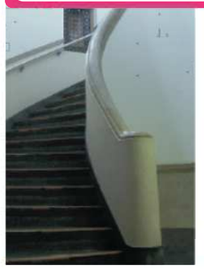
【特　徴】

- 中央にドームを配した、左右対称の構え。
- 空から見ると鳥が翼を広げた形で、どっしりとした中にも優しさと美しさがある。
- アーチや装飾が多く取り入れられ、格調がとても高い。

右から左に古い漢字で「廳縣媛愛」

戦時中は本館全面が迷彩色に塗られていた。

このらせん階段を38段上るとそこには…



●4階上塔屋（とうや）「ドーム会議室」

- ドームの真下にある塔屋という場所。
- 建設当初は会議室
  ↓
  近年は書庫
  ↓（芸予地震（平成13年）で本棚崩壊）
  再び会議室
- 壁に愛媛県が誕生してからの歴代県庁舎の写真等を展示。

●4階「正庁（せいちょう）」

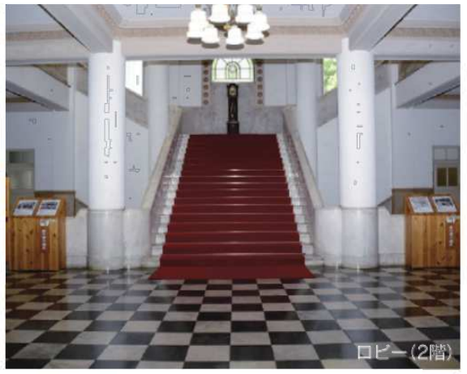
- 正庁とは、辞書では「正面の大広間」。現在で言えば講堂。
- 叙勲や県功労賞の伝達式などの式典を行う。
- 柱の上には彫刻と鷲（わし）が…「柱頭（ちゅうとう）」と言い、西洋古典建築独特の様式。
- 右の旗は県旗。（昭和27年5月5日制定）

●3階「知事室」

●3階「貴賓室（きひんしつ）」

- 天皇皇后両陛下、各皇族方や外国の大使、総理大臣など、県の公式の特別なお客様をお迎えする部屋。
- 外国の大使が来られた時に利用することが一番多い。（年間5回程度）
- 部屋の両側には、大理石でできた暖炉（※）がある。（この中にアンモナイトが）※但し、当初から薪ではなく、電気式の暖房設備であった。
- 天井のシャンデリアは、建築当初からのもので、ガラス製。

●2階「ロビー」



●正面玄関

- 床・階段は今治大島産の花崗岩が使用されている。
- 車寄せから直接2階に堂々とした玄関が続いている。
- 車寄せの柱は古代ギリシア建築様式で、アカンサス（葉アザミ）の葉をデザイン化。
- 周りには12本の記念樹があり、中には中国から贈られた大変貴重な松もある。

- 白黒の床や階段は大理石。よく見るとマキガイの化石が隠れている。（１つや２つではありません）
- 当時の日本建築はほとんどが木造。シャンデリアやステンドグラスやエレベータまであった県庁は珍しい。
- 平成15年に映画『世界の中心で、愛をさけぶ』（※）の撮影があった。※宇和島市出身 片山恭一原作

ちょっと時間旅行

■落成式典の模様（昭和4年4月19日）

「春光注ぐ青空の下、白亜に輝く新庁舎の落成式典が盛大に挙行された。・・・式後、仮議事堂階上及び旧本舎階上から撒餅を行った後、新館屋上東側バルコニーにおいて祝賀会が開かれ、余興として南宇和郡家串の荒獅子舞、宇和島青年団の八つ鹿踊り、生石青年団の万歳、松山芸妓の手踊りが演じられた。また、一般県民のためには、物産陳列所前の舞台で先の芸能が続いて演ぜられたほか、仮議事堂前の土俵で青年角力が行われ、十重二十重に観衆が人山を築き非常な盛況であった。新庁舎は4月21日から3日間、終日一般に公開され、各室では各課がそれぞれ趣向をこらした県勢展覧会を開催、これまた連日人波があふれたと報ぜられた。」

（「愛媛県史 近代下」より）

小説『坂の上の雲』の主人公、秋山兄弟の兄、秋山好古は、当時北予中学校（現松山北高校）の校長先生でしたので、この落成式典の模様を来賓700余名の一人として見ていたかも・・・。